CCMC 2024

Contemporary Computer Music Concert

「多様性豊かなアクースマティック音楽の現在」

マルチ・チャンネル・スピーカー・オーケストラによる

アクースモニウム･コンサート　ワークショップ

2024年3月16日（土）17日（日）

同志社女子大学 京田辺キャンパス　芸術劇場 ルーム23（京都）

2024年3月23日（土）24日（日）

東京日仏学院　エスパス･イマージュ（東京）

主催：音と音楽・創作工房116（ACSM116）

助成：公益財団法人かけはし芸術文化振興財団

協力：Motus Compagnie musicale

東京公演後援：在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ

@アンスティチュ・フランセ東京　エスパス・イマージュ（東京）

アクースモニウム演奏コンサート
プログラム

3 月 23 日（土）

15:00　アクースマティック・ミュージック・ライブコンサート 1
Acousmatic Music Live Concert 1

1-1	成田　和子　NARITA Kazuko	鐘が鳴る風景 (2024) Paysage des cloches sonnantes (2024)
1-2	田代　啓希　TASHIRO Hiroki	Electrical Geography
1-3	森田　信一　MORITA Shinichi	マーガレット　Marguerite
1-4	大久保　雅基　OHKUBO Motoki	白い卵と茶色い卵　White and Brown Eggs
1-5	坂野　伊和男　BANNO Iwao	depth

16:00　アクースマティック・ミュージック・ライブコンサート 2
Acousmatic Music Live Concert 2

2-1	渡辺　愛　WATANABE Ai	忘却（Be^{7}記得）　Forget
2-2	かつふじたまこ　KATSUFUJI Tamako	あいつは、いったい、、、「風の又三郎」より What on Earth Is He...?
2-3	平野　砂峰旅　HIRANO Saburo	アトモスフォンのための即興曲 Impromptu for Atmosphone
2-4	牛山　泰良　USHIYAMA Taira	ずくねえコンポジション　Gutless Composition
2-5	仲條　大亮　NAKAJOH Daisuke	群雨 (2020-2024) Murasame, passing showers of reflective rain (2020-2024)

17:00　アクースマティック・ミュージック・ライブコンサート 3
Acousmatic Music Live Concert 3

3-1	RAKASU PROJECT.（落　晃子）　RAKASU PROJECT.（OCHI Akiko）	Circulation
3-2	岡本　久　OKAMOTO Hisashi	私が聴いたものたち 6　The ones I listened to - 6
3-3	高野　大夢　TAKANO Hiromu	Another Room
3-4	柴山　拓郎　SHIBAYAMA Takuro	MADSTCOLL
3-5	葛西　聖憲　KASAI Masanori	Étude 2024

18:00　アクースマティック・ミュージック・ライブコンサート 4

Acousmatic Music Live Concert 4

4-1	由雄　正恒　YOSHIO Masatsun	閑坐聴松風（かんざしてしょうふうをきく） Kanza shite shōfū wo kiku
4-2	檜垣　智也　HIGAKI Tomonari	Aqua patterns
4-3	ドニ・デュフール　DUFOUR Denis	FA 67-54 op.198 [2022] より 05. 06.
4-4	ヴァンサン・ロブフ　LAUBEUF Laubeuf	木々も夢を見ているようだ　(2024) フィクスト・メディア "Même les arbres semblent rêver" (2024) Pour support audio

19:00　CCMC 公募入選コンサート A

Concert A: Works selected by CCMC

A-1	Zuriñe F Gerenabarrena	Whispers
A-2	Daria Baiocchi	OZ
A-3	Berk Yagli	The Cycle of Life and Decay
A-4	Valentina Ciniglio	Dragonara

3 月 24 日（日）

15:00　アクースマティック・ミュージック・ライブコンサート 5

Acousmatic Music Live Concert 5

5-1	岡田　智則　OKADA Tomonori	陰陽　yin and yang
5-2	佐藤　亜矢子　SATO Ayako	T-P-T
5-3	長瀬　元應　NAGASE Gen	愚者たちに捧げられた典礼 Liturgie dédiée aux imbéciles
5-4	高橋　哲男　TAKAHASHI Tetsuo	フロッピーディスクを聞いて/録音してみたら Shape without r/w

15:50　アクースマティック・ミュージック・ライブコンサート 6

Acousmatic Music Live Concert 6

6-1	大塚　勇樹　OHTSUKA Yuki	Fragmentary Passage (woundability)
6-2	宮木　朝子　MIYAKI Asako	銀塩蓄音機—わたしたちがいなくなったあとに Silver halide phonography—The ambience after Us
6-3	足本　憲治　ASHIMOTO Kenji	欠片の色　Color of Fragments
6-4	石上　加寿也　ISHIGAMI Kazuya	もう一つの日常のこと　Another Everyday Things

16:45　CCMC 公募入選コンサート B

Concert B: Works selected by CCMC

B-1	張　楊　ZHANG YANG	高山流水
B-2	ロエイショウ　LU YONGSONG	Communication
B-3	金鍾均　KIM JONG GYUN	meltdown examination
B-4	ジョ　コウギ　XU KANGYI	心流　Kokoro no nagare
B-5	ト　シュンコ　DU JUNHAO	BICYCLE（自転車）
B-6	カンチ　HAN ZHI	もし自分が虫だったら　Si j'étais un petit ver.

17:30　CCMC 公募入選コンサート C

Concert C: Works selected by CCMC

C-1	守谷　悠吾　MORIYA Yugo	落ちてゆく
C-2	王梓屹　WANG ZIYI	Mono 疎外
C-3	岩熊　恵子　IWAKUMA Keiko	風
C-4	大金　駿介　OGANE Shunsuke	Conversations with Myself

18:15　CCMC 公募入選コンサート D

Concert D: Works selected by CCMC

D-1	Epameinondas (Epa) Fassianos	Memoires of Japan (2023) - 日本の思い出 (2023)
D-2	Mike Vernusky	Omoidasu
D-3	Panayiotis Kokoras	Rotary Pan Flute
D-4	YuqiGuo+Zhejiang Media College	Mire

〈プログラムノート〉

3 月 23 日（土）
15:00 アクースマティック・ミュージック・ライブコンサート 1 / Acousmatic Music Live Concert 1

1-1　作曲者名：成田　和子　NARITA Kazuko
作品タイトル：鐘が鳴る風景 (2024）　Paysage des cloches sonnantes (2024）
作品解説：古今東西、鐘の音は時を知らせ、そして呼びかける。その響きはあらゆる節目を記録し、記憶を蘇らせる。記憶の中で鐘が鳴る風景を描いてみた。
プロフィール：1997 年から電子音響音楽のコンサートの開催に携わっている。電子音響音楽作品のほか、オペラ、管弦楽曲や室内楽、邦楽作品など多数の作品を作曲、内外で演奏されている。同志社女子大学学芸学部音楽学科特任教授。

1-2　作曲者名：田代　啓希　TASHIRO Hiroki
作品タイトル：Electrical Geography
作品解説：ふと何気なしに回路図や配線図を眺めていた時、私はそれらが何となく地図のように見えた。おそらく疲れていたのだろう。複雑に敷かれた配線はまるで大都市の交通網のように、それぞれ異なる役割を持った部品は大小様々な建築物のように……それらを駆け巡る電気は人流に等しく、小さな力が集まって大きな物を生み出す様子に、何か不思議な魅力を感じたのだ。私はこの回路図――地図――を様々な観点で分析する分野を、たとえば電気地理学《Electrical Geography》と名付けることにして、音で読み解いてみることにした。
ぜひ聴き手には私が地図を読み解いて作り出した音の空間から、素敵な情景を「Guess」してみてほしい。
プロフィール：神戸市出身。電子音楽家・サウンドエンジニア・ビデオグラファー。
電子音響音楽の作曲・演奏を主なフィールドとして創作活動に取り組んでいる。
アナログからデジタルまで幅広い知識を活かしてエンジニアとしても活動しており、音響だけでなく映像撮影や LIVE 配信に関するオペレート及びテクニカルサポートなどにも従事している。
これまでに、CCMC(2016~2023 東京)、FESTIVAL FUTURA (2019,2020 仏)、ボンクリ ・フェス (2019~2023 東京）などで作品を上演。CCMC2019 にて FUTURA 賞、2020 にて MOTUS 賞を受賞。
大阪芸術大学大学院博士課程前期芸術研究科芸術制作専攻作曲研究領域(電子音楽）修了。
現在、京都精華大学メディア表現学部非常勤講師。

1-3　作曲者名：森田　信一　MORITA Shinichi
作品タイトル：マーガレット　Marguerite
作品解説：音の素材として、日常にある様々な音を採集した。選んだ音をどこまで加工するのか？　それらをどのように組み立てて作品を作るのか。いろいろな試みをする中から、音色、ピッチの高低、時間的刻み、長さ、強弱といったものによって作品を組み立てていった。そ中からアクースマティック作品を作ることは、いろいろな試行錯誤を試みつつ、少しずつ組み立てていく作業が続くことになる。
プロフィール：東京理科大学で物理学を学ぶ。江崎健次郎主宰の音響デザイナー協会に加わったことから、“音展”（音の展覧会）での活動で、1973 年から 1979 年まで電子音響作品を発表。東京学芸大学大学院で作曲と音楽教育学を学ぶ。作曲グループ　”パッケージ 21”（1984〜1990）、その他で器楽作品を発表。電子音響音楽は、CCMC、Miso Music Portugal、FAF、Bourge で発表。作曲家協議会会員。

1-4　作曲者名：大久保　雅基　OHKUBO Motoki

作品タイトル：白い卵と茶色い卵　White and Brown Eggs

作品解説：アクースマティック音楽における作曲では、音を生成したり録音を用いることによって用意した波形を音響処理によって、別の音響テクスチャに変えて、その素材が持つ質感によって得られる情動を構築する。鑑賞者としての音は、一般に知られているピアノの音などであればそれだと認識できるし、電子音によって再現されたピアノの音もエレクトリック・ピアノだと認識できる。しかしグラニュラー・シンセシスによって分解されたピアノの音は、その処理を知らない人にとってピアノには聞こえなくなるかもしれないが、知っている人にとっては加工されたピアノの音だと理解できる。それらの認知の違いについてバランスを取るか、もしくは無視して純粋に音の質感によって作曲が行われるかは人によって異なる。スピーカーから出てくる音をアナライズする聴き方は、音響処理によって生まれる音を多く知っている方が、音楽をより理解できるのか、それとも知らなくても音の種別を分離できるようになるのか、未だに疑問である。そのようなことを考えながら作曲に取り組んだ。

プロフィール：1988 年宮城県仙台市出身。電子音響音楽、コンピュータ音楽、室内楽、インスタレーション、映像等、多岐に渡る表現手法で、テクノロジーによって音楽のあり方を問う。名古屋芸術大学、愛知淑徳大学、相愛大学非常勤講師。洗足学園音楽大学音楽・音響デザインコースを卒業。情報科学芸術大学院大学[IAMAS]メディア表現研究科 修士課程修了。Contemporary Computer Music Concert2010 にて ACSM116 賞、Wired Creative Hack Award 2019 にて Sony 特別賞、ARTE PUBBLICA E METAVERSO(2023)にて現代音楽部門 3 等賞を受賞。愛知県芸術劇場主催「サウンドパフォーマンス・プラットフォーム 2019」、塩竈市杉村惇美術館若手アーティスト支援プログラム Voyage 2021 に採択された。先端芸術音楽創作学会、日本 AI 音楽学会、日本電子音楽協会会員。

1-5　作曲者名：坂野　伊和男　BANNO Iwao

作品タイトル：depth

作品解説：音を探している時「私は今どんな音を聴きたいのだろう」などと想いを巡らすことがある。「六斎念仏」を引用したのはそのあたりからきている。あまり細工せず，ほぼありのまま，風景のように使ったことは少しばかり気恥ずかしいが，「六斎念仏」がおそらく本質的に持つ透明感や普遍性，そして歴史の故だろう，遠くの地平を見ているような，畏敬の念の共振作用とでもいうような感覚を私に想い起こさせてくれる。

プロフィール：1959 年愛知県生まれ。九州芸術工科大学 芸術工学部音響設計学科卒業。同大学院 修了。1986 年 NHK 日本放送協会入局。主にドラマ，音楽のミキシングに 30 数年間従事。ボンクリ 2023「電子音楽の部屋」出展。CCMC には公募も含め 2012 年から参加している。

16:00 アクースマティック・ミュージック・ライブコンサート 2 /Acousmatic Music Live Concert 2

2-1　作曲者名：渡辺　愛　WATANABE Ai

作品タイトル：忘却（Be^{7}記得）　Forget

作品解説：今年度 5 月に台湾で行われたコンサート「Be^{7}記得—林亨泰音樂會」からの委嘱で作曲。台湾の詩人・林亨泰のテキストを題材に、ピアノ録音とフィールドレコーディングを加えました。フィールドレコーディングは委嘱者の Ross Aftel 氏が台湾での生活の様子をスマホの動画やボイスメモに記録したものを素材としました。詩人の人生が今台湾に生きる人々の経験と重なるように、忘却する記憶を繋ぐように作りました。初演時の朗読は石川雅樹氏によるものです。このプログラムノートを書いている今は初演版からの改訂を試みているところですが…さて、どうなりますか。

プロフィール：作曲家。アクースモニウム演奏家。東京藝術大学、昭和音楽大学、玉川大学各非常勤講師。日本電子音楽協会理事。先端芸術音楽創作学会会員。JWCM 女性作曲家会議メンバー。東京音楽大学大学院修了後に渡仏、パリ国立地方音楽院修了。東京藝術大学大学院博士後期課程修了。作品はイタリア、フランス、スイス、スペイン、オランダ、韓国、台湾等各国で上演されている。France Mu-

sique や Radio Sakamoto にて放送。 https://aiwatanabe.tumblr.com/

2-2　作曲者名：かつふじたまこ　KATSUFUJI Tamako
作品タイトル：あいつは、いったい、、、「風の又三郎」より　What on Earth Is He...?
作品解説：あれは本当にあった出来事だったのか？
日常の中にインサートされる白昼夢。
少年たちの憧れが生み出した偶像？
交錯する夢と現実。
あの夏出逢ったのは、 ”高田三郎” というただの転校生の少年に過ぎなかったのかもしれない。
朗読：杉山雅紀　テキスト：宮沢賢治
The material for this work is a reading of the fairy tale `Kaze no Matasaburo" written by Kenji Miyazawa.
One day, transfer student Saburo appeared in the classroom.
The boys believed he was the child of the wind god. However, he may have been nothing more than anillusion created by boys' longing.
Reading by Masaki Sugiyama
プロフィール：音作家。90 年代半ばより詩や言葉を用いた音作品の制作を始める。2000 年夏、フランス国立視聴覚研究所 INA-GRM にて作曲を学ぶ。何気ない日常から小さな奇跡（音）を拾い集め紡ぎ出されるその作品は、日常の隣のちょっとへんてこな世界を表現する。
Motus（仏）よりの作曲委嘱、フランス、イタリア等のフェスティバル、スペインや NY のラジオ番組での作品上演のほか、パリ、ベルリンでのライブ演奏、バンコクでのパフォーマンスアートフェスへの参加など、その活動は日本からはみ出したりもする。
一方、鍵盤ハーモニカやビー玉、ペットボトルなどの日用品で奏でる繊細な生音と、エレクトロニクスの融合で唯一無二の音世界を作り出す。
また、日用品で奏でる「日用品オーケストラ」ワークショップも展開中。
https://hello-tsukineco.jimdo.com/

2-3　作曲者名：平野　砂峰旅　HIRANO Saburo
作品タイトル：アトモスフォンのための即興曲　Impromptu for Atmosphone
作品解説：自作の楽器／音響システムであるアトモスフォン(Atmosphone)による即興曲アトモスフォンは，マルチチャンネルのマイクとスピーカを使いハウリングを生成させる．ハマイクとスピーカの間にパソコンを介在させてハウリング音を演奏する．また，マイクからの音をパソコンで加工して独特の響きを加える．複数のマイクとスピーカを使うことで立体音響の効果も演出している．
通常，ハウリング音は大きくて不快なことが多いが，ハウリング音が美しく響く作品である．
プロフィール：学生時代より、ビデオアートや CG のサウンドトラックの制作を始める。その後、インスタレーション、演劇、CG といった 様々なメデイアや空間のサウンドデザインに携わる。
アーティストとしてサウンドインスタレーションやメディアインスタレーションを制作すると同時に、ビデオアーティスト、メディアアーティストや CG 作家とのコラボレーションも多い。近年は、音と映像のインタラクションをテーマにインスタレーションやパフォーマンス作品を制作。その作品は，サウンドや映像だけでなくコンピュータプログラムやインタラクティブシステムを含めた形態をとることが多い。
九州芸術工科大学（現：九州大学）大学院 情報伝達専攻 修了芸術工学修士、関西学院大学理工学研究科博士後期課程修了、工学博士。ISEA、ICMC、NIME などの国際会議で音楽作品、メディアアート作品入選。サウンドトラック制作を手がけた映像作品も国内外で受賞多数。『メディアアートの世界』（共著）『コンピュータ音楽』（共訳）。
専門分野（コンピュータミュージック/メディアアート ）/ 京都精華大学　メディア表現学部／芸術研究科　教授

2-4　作曲者名：牛山　泰良　USHIYAMA Taira

作品タイトル：ずくねえコンポジション　Gutless Composition

作品解説：「ずくねえ」とは長野の方言で根気がない、根性ないといった意味を持ちます。
まぁず作ってる時からごしてぇごしてぇもんで、おらほこんなずくねえとは思ってなかっただに。のてでどうしようもねえ。でもやくやく東京に行くだに、そんな気持ちはぶちゃってずくだして作曲ず。

プロフィール：電子音楽,サウンドアート作家、音響エンジニアと活動は多岐にわたる。エリザベト音楽大学、京都精華大学、相愛大学、 帝塚山学院大学非常勤講師。2014 年に仲間と共に電子音楽カンパニー「hirvi」を立ち上げ、電子音楽のワークショップやコンサートを企画・運営している。創作においては伝統と前衛、音と空間を内包した創作を目指す。2014 年　『かみなり犬の夢』が Contemporary Computer Music Concert 2014　FUTURA 賞を受賞、Festival FUTURA2014（フランス）にて上演。
2021 年　音響技師として参加したオペラ「ロミオがジュリエット」が佐治敬三賞、文化庁芸術祭音楽部門大賞を受賞。

2-5　作曲者名：仲條　大亮　NAKAJOH Daisuke

作品タイトル：群雨 (2020-2024) Murasame, passing showers of reflective rain (2020-2024)

作品解説：2017 年から継続している蓮の連作のひとつです。雨音は聞き慣れているようで、周囲で降っているその一滴を聞き分けることは困難です。遠景としての雨が波の音のようであったり、近景としての雨が地面で跳ねる音は泥の音に近く、汚いが故にリアリティを感じる等、こうした体験は既知であると同時に未知であり、そして現象に意味を付与するのは人間です。昨年発表した 2006 年以来の雨の作品でのフォルマリスティックな実験を経て、本作では人が自然の何を美しいと見做しているのか、そこに何を見出そうとしているのか考えてみたいと思っています。願わくば、降るなら恵みの雨を。

プロフィール：国際基督教大学アジア文化研究所研究員
音楽学、メディア情報学研究、メディア作品制作ほか音楽、映画等エンターテインメント関連セールスプロモーション、システムコンサルティング
2005 年度 MOTUS 夏期アトリエ参加、アクースモニウム向け作品としては CCMC に 2005 から、FAF に 2010 から等、定期的に作品を出品。

17:00 アクースマティック・ミュージック・ライブコンサート 3 /Acousmatic Music Live Concert 3

3-1　作曲者名：RAKASU PROJECT.（落 晃子）　RAKASU PROJECT.（Akiko Ochi）　落晃子/Ochi Akiko

作品タイトル：Circulation

作品解説：京都御苑のバッタが原という草原に雨が降る音、広島県福山市の北部にある、小説「山椒魚」で知られる井伏鱒二の生家近くの清流の音、そして同じく福山市の鞆の浦の海の波の音、広島県の宮島の砂浜に寄せる波の音等を録音して使用した。生い茂る草原の上にしとしとと降る雨は、やがて清流となり海へと流れ、水蒸気が水滴となり、雨となって再び草原の上に降りしきる。全ての生命の源である水が循環していくさまをテーマにした作品である。

プロフィール：広島大学大学院学校教育研究科音楽教育専攻修了。長年に渡り専門学校や高等学校、大学で教鞭をとる傍ら、活動名「RAKASU PROJECT.」として電子音響音楽から商業音楽制作まで、幅広い活動を行う。実験音楽、即興音楽アーティストとの共演、ダンスや伝統音楽とのコラボなど、ジャンルを超えた幅広い活動を展開、フィジカルコンピューティングによる即興演奏パフォーマンスや、サウンドインスタレーション制作なども手がけている。
現在、京都精華大学ポピュラーカルチャー学部／メディア表現学部教授。日本音楽即興学会（JASMIM）理事。

3-2　作曲者名：岡本 久　OKAMOTO Hisashi

作品タイトル：私が聴いたものたち 6　The ones I listened to - 6

作品解説：日々巷にあふれる音は、その時々によって心地よくもあり不快にも響く。甚だ聞くに堪えがたい音であっても、切なさをしみじみと感じたり、逆に美しいであろうはずの音が、不愉快この上なく感じることもままある。むろんそのような個人の心情などお構いなく、音は無限の連続で生まれては消えていく。録音はそれらの営みのほんのわずかな一瞬だけの記録に過ぎないが、どのようなの音も何ひとつ捨てることのできない、かけがえのない瞬間の連続であることに気づかされる。

プロフィール：大阪芸術大学芸術学部音楽学科作曲専攻卒業。作曲を原嘉壽子氏、七ッ矢博資氏に師事。和声法、対位法をサルバトーレ・ニコローシ氏に師事。作曲や編曲、コンピュータ音楽をはじめオリジナル電子楽器製作、若手の育成など様々な活動を行っている。また音環境研究として、特に様々な里地里山地域の音の記録を行い、その特徴などの分析研究を行っている。関西国際大学教授、大阪芸術大学非常勤講師。音と音楽・創作工房 116（ACSM116）運営委員、神戸市音楽家協会会員、日本騒音制御工学会会員、日本サウンドスケープ協会会員等。

3-3　作曲者名：高野　大夢　TAKANO Hiromu

作品タイトル：Another Room

作品解説：本作は時間と空間の「運動」に着目した作品である。「時間（音）を空間へ展開すること」や「空間そのものが時間（音）とともに変容すること」といった時–空間の運動が相互に関わり合うことの総体として音楽を捉え、そのさまざまな様態を表出させることを試みている。そのような運動に巻き込まれ、作品を聴き終わるとき、われわれはすでに変容してしまった以前とは異なる場所、「別の部屋」に自身が存在していることを発見するだろう。

本作は 8ch マルチ音響システムのために 2020 年に作曲され、SICMF 2020（Seoul, Korea）に入選し初演された。また Espacios Sonoros 2020（Salta, Argentina）にてバイノーラルバージョンが放送初演、ICMC2023（Shenzhen, China）に入選し再演されている。

プロフィール：山梨県出身。山梨大学大学院教育学研究科修士課程修了。東京電機大学大学院先端科学技術研究科博士課程在籍。音楽と非音楽の境界に関心を持ち、社会的に制度化されたものとしての音楽の枠組みを問い直す視点からの創作研究活動を行う。作品は Contemporary Computer Music Concert（CCMC）、International Computer Music Conference（ICMC）、Seoul International Computer Music Festival（SICMF）、Espacios Sonoros など、国内外のコンサートや音楽祭にて上演されている。音響エンジニア、アクースモニウムの演奏者としても活動し多くの作曲家の作品上演に携わっている。

日本音楽表現学会会員、日本電子音楽協会会員、音と音楽・創作工房 116 運営委員。

3-4　作曲者名：柴山　拓郎　SHIBAYAMA Takuro

作品タイトル：MADSTCOLL

作品解説：この作品は、東京電機大学理工学研究科の講義を受講している学生によるコラボレーション作品である。それぞれのコンセプトに基づいて 12 曲が作曲され、リミックスされた。ノイズ、狂気、耳鳴り、記憶と現実の狭間のローファイな音像、コンピュータにまつわるノイズなどの表現を用い、今の日本で生きる 20 代の視点によって日常から切り取った音響の断片の集積として構成された作品である。この作品は、COVID-19 に縛られた 2020 年を過ごし、互いに共鳴し合うコレクティブ作品である。

プロフィール：電子音響ピープルプロジェクト / TEAM MADSTCOLL（柴山拓郎, 阿部 沙也加, 半田 悠樹, 橋本 亮吾, 小林勝也, 久保田 知恵, 間下 拓海, 永井 都月, 野垣 美歩, 鈴木 隆潤, 坪谷 岬, 山口 大雅, 吉田 優理奈）は東京電機大学理工学研究科「音楽とデザイン特論」の 2021 年度の受講生有志である。その多くにとって電子音響音楽の創作は初めての体験だったが、そそれぞれが個性溢れる音響表現に取り組んだ。ICMC2022 年入選作品。

柴山 拓郎：1971 年、東京都生まれ。作曲家･サウンドアーティスト。1997 年東京音楽大学大学院

修士課程修了。 2010 年東京藝術大学大学院博士課程修了。電子音響音楽の創作を多様な人々と共有する参加型プロジェクトアート「電子音響ピープルプロジェクト」主宰。2024 年にはストックホルム舞台芸術博物館、ZKM、Festival Futurat との協働プロジェクトが予定されている。2017 年 4 月〜2018 年 3 月 ZKM 客員芸術家・客員研究員。現在東京電機大学教授のほか東京音楽大学特任教授を兼任。
https://soundcloud.com/takuro-shibayama-1

3-5　作曲者名：葛西　聖憲　KASAI Masanori
作品タイトル：Étude 2024
作品解説：久々の東京での発表。ピアノの音をエフェクタで変化させて、それを素材に創った曲。打鍵の音が少しきついかもしれない。
ところで、ノイマンのダミーヘッドバイノーラルマイクを立てて録音をする予定です。マイクに触らないようにお願いします。結構、重たいのでスタンドが不安定と思います。
プロフィール：東京藝術大学音楽学部作曲科卒業後、パリ国立高等音楽院で作曲，管弦楽法，和声法、およびフーガを学ぶ。現在、同志社女子大学特任教授。

18:00 アクースマティック・ミュージック・ライブコンサート 4 /Acousmatic Music Live Concert 4
4-1　作曲者名：由雄　正恒　YOSHIO Masatsune
作品タイトル：閑坐聴松風 （かんざしてしょうふうをきく）　Kanza shite shōfū wo kiku
作品解説：この曲は、"間"をテーマとした一連の作品の中の一つして、電子音響作品として作曲されたものである。
４作目。
兎角世の中というのは蠢めいていて休む暇なし。
ー中略ー
音楽では音が鳴らない箇所は休符、休符は休むものではない、ということ禅問答のようなことがある。
ー中略ー
この禅問答のような捉え方はいかにも日本美学のように思う。
ー中略ー
間、
この言葉というのはとても感慨深いものである。
・・・
結びは、まだ無し。
プロフィール：神戸出身。作曲家、メディアマスター No.75。コンピュータによる芸術作品の創作を専門とし、アルゴリズミック・コンポジション、音響合成、ライブエレクトロニクス、メディア表現を題材にした創作研究を行っている。電子音響作品は、国内外（ICMC-国際コンピュータ音楽会議、Contemporary Computer Music Concert, FUJI acousmatic music festival, MUSICACOUSTICA-BEIJIN, Festival FUTURA 等）において演奏される。
昭和音楽大学作曲学科、IAMAS アートアンドメディア・ラボ科を卒業。日本作曲家協議会、日本音楽即興学会、情報処理学会音楽情報科学研究会会員、先端芸術音楽創作学会運営委員、日本電子音楽協会理事、昭和音楽大学准教授。

4-2　作曲者名：檜垣　智也 HIGAKI Tomonari

作品タイトル：Aqua patterns

作品解説：アクースマティックな水の戯れ。水の音を素材にして、作品をいくつもつくってきました。この作品もそのひとつになります。

プロフィール：世界中のアクースモニウムを演奏し、作曲・研究・教育活動を展開している。ハーバード大学、ケルン大学、Futura 音楽祭等で招待公演。フランス国立視聴覚研究所音楽研究グループ、回路の詩神、高橋アキ等から作品の委嘱をうける。engine books と Motus から３枚のソロ CD をリリース。詩人の吉増剛造、映画監督・七里圭ら様々なジャンルのアーティストとの共同制作にも取り組んでいる。愛知県立芸術大学大学院修了。博士(芸術工学、九州大学)。第 5 回国際リュック・フェラーリ・コンクール最高賞(2003)、第 18 回文化庁メディア芸術祭審査委員会推薦作品(2014)、大阪文化祭奨励賞(2021)等受賞、入選多数。東海大学准教授、大阪芸術大学客員教授。

4-3　作曲者名：ドニ・デュフール　Denis Dufour

作品タイトル：FA 67-54 op.198 [2022] 67'54 より　　05. 2012 06'00
06. 2015 06'00

作品解説：フレデリック・アッカヴィーヴァに捧ぐ

ブランディヴィにある作曲家のスタジオにて制作

録音: ドニ・デュフール

声楽: フレデリック・アッカヴィーヴァ

メゾソプラノ: ロレ・リクセンベルグ

声楽とチベットホルン: Hém-Ish

ラオス笙：ドニ・デュフール

初演：2023 年 8 月 25 日、クレスト、サル・デ・ムーリナージュ・ド・エスパス・スベイラン、フェスティバル Futura にて、ジョナサン・プラジェ演奏アコースモニウム Motus

FA 67-54 は、フレデリック・アッカヴィーヴァの人生の数年間を "黄金色 "に彩ったものだ。

彼が生まれる 2 年前とインタビューから 2 年後の彼の誕生日である 2019 年 1 月 20 日の間に、何が起こったのか、何が起こっていたのか、そしてこれから何が起こるのかを尋ねた。

「フレデリック・アッカヴィーヴァは力強くて絶対的な作品を作曲し、そのラディカリズムによって識別される作曲家である。彼にとってコンセプトは音と同じくらい重要だ。譲歩や妥協を許すことなく、常に自分の考えを貫き通し、それが彼にとって喜ばしいものであろうとなかろうと、作品の中には体験できるものさえある。録音した音であれ、音響合成した音であれ、現在に根ざしており、ほとんど変容しない。同じことを繰り返さないよう、あらゆることに気を配っているというが、あらゆるレベルでのラディカリズムが、彼をこれほどまでに際立たせているのだ。」（ドニ・デュフール、『Entretiens avec Vincent Isnard - La Composition de l'écoute, Éditions MF, 2021, Paris-』ヴァンサン・イスナールとのインタビューより）

プロフィール：ドニ・デュフールは、音に対する形態学的、表現的アプローチの先駆者の一人である。器楽とアクースマティック・アートの両分野で著名なサウンド・クリエーターとなった。アクースマティック・アートでは、これまでに 200 作品を作曲。

1976 年から 2021 年まで、パリのコンセルバトワールで教鞭をとる。パリ、ペルピニャン、リヨンの音楽院で教鞭をとる傍ら、研究者、講師、コンサルタントとしてセミナー、ワークショップ、マスタークラスに携わる。また教育者として、特にフランス、イタリア、日本におけるアクースマティック・アートの発展に重要な役割を果たしている。

GRM のメンバー（1977 年〜2000 年）として、分析ツールの開発と「リアルタイム」の実践に貢献した。1978 年以降はエレクトロニクスの分野で、1984 年以降はコンピュータ音楽の分野で活躍する。現代音楽における数多くのイベントの企画者や芸術監督を務める。音楽界に影響を与え続けているいくつかの組織、集団、楽器グループの創始者でもある。現在、ブルターニュのモルビアンに住み、文化とウェルビーイングのためのセンターの建設に取り組んでいる。

器楽、声楽、ミクスト、ライブ・エレクトロニクスなど、"リアルタイム"とフィクスとメディア作

品はメゾン ONA から CD 出版されている。
www.denisdufour.fr
www.maison-ona.com/composer-Dufour
www.abbayedelanvaux.fr

4-4　作曲者名：ヴァンサン・ロブフ　Vincent Laubeuf
作品タイトル：木々も夢を見ているようだ　(2024)　フィクスト・メディア
ユーグ・ヴァンサンを偲んで
"Même les arbres semblent rêver"（2024）　Pour support audio
À la mémoire d'Hugues Vincent
作品解説：アクースマティック音楽を作曲するとき、楽器の音をどのように流用するのか。そのアイデアは、チェロを出発点として、編集、ミキシング、ディストーションなどのエフェクトを使って行うことであった。そして、これに他の楽器の音、儀式の断片、シンセサイザーの音、電子音響即興演奏コンサートの抜粋などを加えた。この作品は、即興的な興奮したひとときから始まり、少しずつ、ほとんど光り輝くような穏やかな形へと向かっていく。
チェロの音は、この曲を捧げるユーグの演奏である。曲の中間部に出てくる即興演奏は、2011 年に東京のスーパーデラックスで行ったボリッツ・トリオ（ユーグ・ヴァンサン、ポロと私）のコンサートの録音の抜粋である。
プロフィール：器楽作品、電子音響音楽作品の作曲家、インスタレーション・デザイナー、そして即興演奏家であり、芸術監督として音にまつわる幅広い活動に携わっている。それらの経験からの異なる「視点」からアイデアを探求している。
Ina-GRM、Muse en Circuit のスタジオに招聘され、l'Instant donné、Court-Circuit または L'ONCEIM などのアンサンブルのために作曲している。フランスと海外（北京、東京、ニューヨーク、ジュネーブ、ウィーン）で演奏された作品は 100 を超える。
電子音響音楽のミュージシャンとして、いくつかの日本ツアーに参加。また、秋の音楽祭-festival d'Automne（バスティーユオペラ劇場、サン・ドニの TGP CDN）では、L'Instant donné と Motus と共に、カールハインツ・シュトックハウゼンの「Kontakte」の電子音響パートを演奏した。
2008 年には la Muse en Circuit 主催の第 8 回リュック・フェラーリ国際コンクールに入賞。
CD のリリースは、2011 年に Motus から『Raréfactions』、2013 年に Obs*（ロシア）と Oto（日本）から『The Poetics of Vacuum』、2019 年に Artsonique & Motus から『...on ne sait pas』がある。
2007 年からは la compagnie musicale Motus (パリ)と festival Futura (クレ, ドローム県)の芸術監督を、2021 年からはヴィルールバンヌの国立音楽学校で電子音響音楽の作曲の教授を務めている。

19:00 CCMC 公募入選コンサート A/ Concert A: Works selected by CCMC

A-1　作曲者名：Zuriñe F Gerenabarrena
作品タイトル：Whispers
作品解説：The voice is the predominant element. The word merges or transforms with the external sound; it splits up until it becomes a molecule and enters auditorily in relation to "microscopic" sounds, sounds of the human body, or underlying natural space, which remains hidden from our daily listening.
This piece as decomposition of language, explore the phoneme as a sound object and allows me to approach a deep listening. This material of a different multidimensional nature, with multiple references, refers us to memories or the world of the imaginary, bringing us closer to different sound perceptions, suggesting a new way of listening.
This piece is not a narrative piece, but there is some interest in creating expressive music with a sense of poetry with an accent on the theme of the voice, its changing nature and moving in space, like a close sound that is

sent to the audience.

プロフィール：Zuriñe F. Gerenabarrena studied composition with C.Bernaola and Franco Donatoni.
International forums: Contemporary Music FBBV, Quincena Musical, SINKRO, Bernaola Festival, PHONOS, Festival Synthése, BKA Theather. Pyramidale, Sonoimágenes, Visiones Sonoras, EMU Festival, Elektrophonie, Wealr 09 Fullerton, Musica Viva, Borealis, Musiques & Recherches, eviMus, “Down the Dori” (TWSTokyo), EAM Festen Frost, 7º Musica Electric Nova, MUSLAB, NYCEMF 2017, BIFEM 2017, Noh X Contemporary Music, SICMF 2018 (Seoul), Matera/Intermedia (Prize Acousmatic), Musica Nova 2018 (Honoray Mention), The Sound Beanch (Udine,-Stockholm Winer), TAma Music Festival, Turn-Up Multimedia(Arizona), San Francisco Tape Music , Mise-En Music Festival 2019, (ICMC/NYCEM 2019 (NY), Atemporánea Festival, Helicotrema Festival, Ecos Urbanos…several Cds.
Artist in residence: LEC (Lisbon), USF. Bergen (Norway), VICC, (Sweden), Tokyo Wonder Site (Japan), Shiro Oni (Japan), ZHdk, ICST (Zurich), EMS (Stockholm), NOTAM (Oslo). Professor of Counterpoint, Harmony, and Electronic composition in Master Degree in Contemporary Music Creation, at MUSIKENE (Higher Conservatory of Music, Basque Country) www.zfgerenabarrena.com

A-2　作曲者名：Daria Baiocchi
作品タイトル：OZ
作品解説：The main idea behind this work was to create a non-existent Galaxy based on soundscapes that would characterize different planets or stars.The six described planets are characterized by either harmonic or non-harmonic sounds. Some planets exclusively feature harmonic sounds, while others have non-harmonic ones, and some have a mixture of both. A galaxy constructed upon the natural and the artificial. The connection between the natural and the artificial is linked to the theme of artificial birds and artificial water. The relationship between the various planets or stars is represented by the value of the duration of time, which is also half of the whole. Welcome in a new galaxy, Oz.
プロフィール：Daria Baiocchi achieved an MA in piano, an MA in classical composition and an MA in electronic music. She earned her degree in Classical Literature from the University of Bologna (Italy). She won more than 100 selection as electroaocoustic composer in Europe, USA, South America, India, Cina, Australia and has been awarded of the first prize in Europe and USA international competitions (Italy, Lithuania, Bulgaria, Philadelphia etc.) . She's currently main Professor at Fermo Conservatory of Muisc "Pergolesi". Daria is the Director of the Sound Art Museum Online in Ascoli Piceno and, as volunteer, the Artistic Director and speaker on the radio program "Classical Music and…", in FM in central-east of Italy, which explores new performers, contemporary composers and sound designers/sound artists.

A-3　作曲者名：Berk Yagli
作品タイトル：The Cycle of Life and Decay
作品解説：All things are bound to a never-ending cycle of life, growth, and decay. Unlike our general human perception, nothing is permanent, and everything is bound to change. Life and death, suffering and tranquillity, and ever changing states of consciousness are what is stable.
In Buddhist belief, Samsara is the endless cycle of life, death, and suffering (which all living souls are part of and will be part of until they manage to free themselves from it).
This piece attempts to find a parallel between these two notions to create a sonic farewell to 'Şampiyon Melekler' (two Cypriot volleyball teams (high school girls-boys) that went to Turkey in February 2023 to compete in the finals and lost their lives due to their hotel collapsing because of the 7.8 Earthquake) wishing that they found liberation from this cycle in which they are no longer experiencing suffering but only tranquillity.
プロフィール：Berk Yağlı (born 1999) is a Cypriot guitarist, composer, and producer. He has been active in the UK since 2017. He studied Music and Sound Technology (University of Portsmouth), Masters in Composition (University of Sheffield), and currently at the University of the Arts London working under Adam Stanovic for his Ph.D. topic hybridity between metal and electroacoustic music. His works have been presented inter-

nationally including Argentina (Salta), UK (Leicester, Plymouth, Sheffield, London, Staffordshire), US (New York City, Indianapolis, Georgia, Utah, Kansas City, Missouri), Taiwan (Taipei), South Korea (Seoul), Poland (Krakow), Switzerland (Zurich), Ireland (Limerick), Italy (Padova), Mexico (Morelia), Austria (Linz), Australia (Sydney), China (Shenzhen) and more. He is regularly invited to compose in studios including VICC (Visby, Sweden), CMMAS (Morelia, Mexico), ACA-Atlantic Center for the Arts (Florida, USA) and Studio Kura (Fukuoka, Japan). He recently won the 2022 18th WOCMAT Phil Winsor International Youth Computer Music Competition Award.

A-4　作曲者名：Valentina Ciniglio

作品タイトル：Dragonara

作品解説：Dragonara is an excerpt from a concept album in progress that started as a game, an interpretation of a dream of the artist and friend Iman Mahdy, who visually transposed her dream.

By using her work as a music score, the piece is one possible interpretation, a challenge to relate with the unknown, and sounding through it.

Dragonara is about metamorphosis in contemporary time; leaving our safe spaces, the boundaries of ourselves, our certainties, is about becoming naked and resonant.

The name "Dragonara" comes from one of the many tuff caves partially immersed in water of Naples, my hometown.

The sonic material is organized in a way that is both descriptive and anecdotal. It consists of field recordings carried out with different techniques (binaural, contact microphones, geophone, re-amping).

The field recordings are then morphed and treated spectromorphologically, calling for attention to the micro-mutations of drones and pulsations in the space.

プロフィール：Valentina is a composer of Electroacoustic music, musician and researcher in the field of Sound Studies, focusing on field recording, binaural format and embodiment processes.

Her education includes International Relations and Institutions of Asia and Africa, Electroacoustic Music and currently she is a PhD researcher in Music at the University of Cambridge.

As a composer her work focuses on multi-channel diffusion and site-specific performances. Her work has been awarded by Zeugma Collective (Italy) and Tempo Reale (Firenze). She has worked with Liminaria (Benevento), Sardegna Teatro (Cagliari), Adef (Cairo), Italian Culture Institute of Cairo, Goethe Institut of Cairo.

As a saxophonist and improviser, she participates in the activities of the electroacoustic orchestra OEOAS (Orchestra Elettroacustica Officina Arti Soniche) and has led two workshops in Egypt, which led to the formation of the Cairo Improvisation Orchestra.

3 月 24 日（日）

15:00 アクースマティック・ミュージック・ライブコンサート 5 /Acousmatic Music Live Concert 5

5-1　作曲者名：岡田　智則　OKADA Tomonori

作品タイトル：陰陽　yin and yang

作品解説：私は、幼少期から高校までチェロを勉強し、長年オーケストラにも取り組んできた。オーケストラの楽器は、音色の違いから音の距離感を体験することが魅力であると私は感じてきた。ミュージック・コンクレートについて学び始めた頃、様々なエフェクトから、オーケストラ楽器の音をより立体的に表現できるのではないかと考えたことが本作作曲の動機である。

本作品は、体操競技における「吊り輪」を表現している。常に体の軸を真っ直ぐ保ち、静止状態を保つ美しさが魅力の種目であるが、全身のバランスを維持するため、両手はさまざまな工夫を行っている。頭の中に描いたプロセスと練習で染み付いた感覚が一体となり、ダイナミックな動きと、ピタリと止まる静止状態のコントラストができあがる。

プロフィール：広島出身。録音技術やプログラミングを中心に、サウンド・テクノロジーを用いて制作を行うサウンド・アーティスト。これまでに、自主公演企画を多くの助成団体に採択され演奏会を実施。エレクトロニクスを用いた地域活性事業や電子技術を使用した現代音楽の普及活動を行っている。

2023 年 3 月の大阪市助成事業による「アクースモニウムリサイタル」では、美術家と共同制作により、コンサートにおいて音楽以外の芸術作品を上演。テクノロジーを使用した音楽表現の発展にも力を入れている。

2017 年度及び 2018 年度愛知県立芸術芸術大学優秀学生賞受賞。長久手市長賞受賞。「CCMC2017」Futura 賞入賞。「Prix Presque Rien2017」入選。「FESTIVAL FUTURA」をはじめ、国内外の音楽祭にて作品上演多数。2019 年「愛知県立芸術大学ポピュラー・クラシック・コンサート」にて、2 管編成のオーケストラ作品『ヤマタノオロチ』が世界初演される。また、アクースモニウムの演奏メソッドの研究にも取り組み、「第 125 回日本音楽学会中部支部定例研究会」や「第 53 回先端芸術音楽創造学会（JSSA）研究会」にて、研究発表を行っている。現在愛知県立芸術大学博士後期課程作曲領域に在学中。

5-2　作曲者名：佐藤　亜矢子　SATO Ayako

作品タイトル：T-P-T

作品解説：T-P-T とは「東京―パリー東京」を意味する。いうまでもなくこのタイトルは、リュック・フェラーリ作曲、六重奏と電子音響のための《パリー東京―パリ》へのリスペクトに基づく。東京で暮らす作曲家は、東京の音に触れ、東京の音に浸る。彼女は 9000km離れたパリへ行く。東京とは異なるアンビエンスのなかで、パリの日常を聞き、パリで音楽をつくる。言語、価値観、思想、宗教、温度、湿度、服装、食べ物、文化の違いが我々の肌を刺激する。「他者と理解し合うことは難しい」数日前に友人とそんな話をした。違いとはなんだろうか。国籍や住む場所がおなじであったとしても、私とあなたは違うし、彼女と彼は違う。どこにでも摩擦は存在して、それは東京とパリの間だけではなくて、東京のなかにも、パリのなかにも、日々あるはずだ。摩擦が彼女を刺激する。循環する日常のなかにある軋みが、芸術を刺激する。

初演：2023 年 10 月 8 日 Encontre Internacional Compositors: Encontres Electroacústics（マヨルカ、スペイン）

プロフィール：作曲家、音楽家、アーティスト。主に電子音響音楽の領域で活動。旅先や日常で出会う雑音・生活の音・物音などの録音物を素材とし、環境や場所の記憶を辿りつつ上書きするような作品を作っている。美術家との共作も多数。ICMC、SMC、NYCEMF、WOCMAT、ISMIR、Festival Futura など各国の音楽祭や国際学会で作品を発表。東京藝術大学大学院アカンサス音楽賞、Destellos Competition、Prix Presque Rien、UPISketch Competition 他受賞。2019 年東京藝術大学大学院音楽研究科博士後期課程修了。作曲家リュック・フェラーリの作品研究で博士（学術）取得。現在、玉川大学、大阪芸術大学、尚美ミュージックカレッジ非常勤講師。https://asiajaco.com

5-3　作曲者名：長瀬　元應　NAGASE Gen

作品タイトル：愚者たちに捧げられた典礼　Liturgie dédiée aux imbéciles

作品解説：昨年 CCMC2023 で発表した「沸騰するシステム」に並行して作成したいくつかの断片を中心に再構成した。CCMC2024 配信版とは内容が異なるので別作品として発表。

ぼくとしては架空の宗教儀礼を想定したが、それを感じる必要はない。スピリチュアルなことへの疑問を常にぼくは持っている。だがそれを想起させて何か扇動するような意図では作らなかったからだ。

プロフィール：1963 年東京生まれ。学習院大学仏文学科在学時に個人レッスンで作曲を有馬禮子氏、音楽史・音楽学を西原稔氏に師事。90 年代音楽・芸術関係の編集記者に従事したのち 2003 年 CCMC 夏期アトリエ参加。

2010 年以降「長瀬元應／Gen0Nagace」名義で電子音楽作品を発表。CCMC コンサート、11、12、14 年富士電子音響芸術音楽祭（FAF）、15 年 FAF ANNEX FUJINOMIYA に出展。甲状腺疾患などで活動休止していたが CCMC2022 から復帰。

5-4　作曲者名：髙橋　哲男　TAKAHASHI Tetsuo
作品タイトル：フロッピーディスクを聞いて/録音してみたら
作品タイトル（欧文）：Shape without r/w
作品解説：偶然 5 インチフロッピーディスクを聞くことができた。これまた録音もできた。偶然だからヨレヨレ　ブツブツ　データの記憶と録音の記録。
プロフィール：Jai is Sendai based composer,engineer
He plays many instruments combined with MAX for his variegated musical performances. Recetlly He addict the Eurorak Modular Synth .
He is interested in the intersections between the concepts of Technology, Space and Physical Expression.
founder of Nord Perdu Edition
Shrine.jp, Ryoondo-tea,beta bodega,FORCE ENERGY RECORDS

15:50 アクースマティック・ミュージック・ライブコンサート 6 /Acousmatic Music Live Concert 6

6-1　作曲者名：大塚　勇樹　OHTSUKA Yuki
作品タイトル：Fragmentary Passage (woundability)
作品解説：年々作品を作る時間を取るのが難しくなってきている。忙しいことはありがたい限りだが、自分のライブや誰かの作品のマスタリング、新しく手に入れたシンセサイザーやプラグインの習得などに日々を追われ、今回のようにアクースモニウムのコンサートでもないかぎりなかなか制作の時間を捻出できなくなっている。とはいえそういった物理的・精神的に生じた断絶を補完できるのも結局は自分自身だけであって、「Fragmentary Passage」とはそのための私的な作品群としてある。「woundability」とは「（身体的・物理的な）傷つきやすさ、損傷のしやすさ」を意味するが、ちょうど 1 年ほど前に大雪で一晩電車の中に閉じ込められたことや COVID-19 に罹って自宅療養という名のセルフ軟禁状態で過ごしたことを思い出しながら、果たして 1 年経った今の心身は完調なのだろうかと改めて確かめるようにしてこの作品を作った。
プロフィール：京都府出身の音楽家、サウンドエンジニア。大阪芸術大学で電子音響音楽の作曲およびアクースモニウムの演奏・音響技術を学び、同大学院博士（前期）課程を修了。Molecule Plane 名義でこれまでに 3 枚の CD アルバムと 2 作の配信限定 EP をはじめ、ライブレコーディング音源やコンピレーション企画への参加など、多数の作品を発表している。また、瀬戸内国際芸術祭、奈良・町家の芸術祭 はならぁと、KYOTO EXPERIMENT などの芸術祭へ出演したほか、ボンクリ・フェス、Festival FUTURA、Festival SILENCE などの音楽祭で作品が上演されている。近年はモジュラーシンセサイザーの演奏家としても活動しており、ユーロラックモジュラーおよび Buchla や EMS などのセミモジュラー、エフェクトペダルを駆使したライブやワークショップを日本各地で行っている。マスタリングエンジニアとしてはこれまでに檜垣智也、福間創、Merzbow、テンテンコ、Sima Kim & Ryuei Kotoge などの作品を担当しており、実験的な電子音楽やノイズミュージックからテクノ～ヒップホップといったクラブサウンドまで幅広いジャンルの作品を手掛けている。
https://linktr.ee/push_it_studio

6-2　作曲者名：宮木　朝子　MIYAKI Asako
作品タイトル：銀塩蓄音機—わたしたちがいなくなったあとに
Silver halide phonography—The ambience after Us
作品解説：人類が姿を消した後の世界にはどのような音の光景が広がっているのか。
ナサニエル・スターンのアート・インスタレーション「The World After Us (わたしたちがいなくなった世界)」では、 人類滅亡後に電子機器、デヴァイスだけが物質として残り続ける世界がアートとして表現されている。また研究者によれば、「人類が姿を消した 1 年後の地球に戻ってきたときに初めに気づくことは、目に見える 変化ではなく音の変化、静まり返った世界だろう」とのことであ

る (https://ideasforgood.jp/2023/11/27/if-humans-went-extinct/)。
そんな世界の音を録音し続ける ”銀塩蓄音機” を想像してみた。フィルム上に残された”かつて誰かが奏でた音楽” の痕跡の上に、もう誰もいない場所の音が刻まれてゆく。

プロフィール：作曲家・空間音響作家・サウンドキュレーター。コニカミノルタプラネタリア TOKYO の 22.2ch ドームにおける立体音響作品展示、光のインスタレーションのための音楽制作など、イマーシブ空間芸術の可能性を模索している。CD『Virtual Resonance』は「磨き上げた鮮烈な響きの音像(CD ジャーナル)」「雅楽とエレクトロニカ、現代音楽が交差する宇宙レベルのアンビエント(Beams Records)」等と評される。近作：サラウンド音響作品〈Afterimage〉(「坂本龍一｜設置音楽展コンテスト」最優秀賞）/〈Hidden Garden〉（共作・映像：馬場ふさこ /第 9 回国際科学映像祭最優秀賞,Yaroslavl Best Artistic Show Prize 受賞）〈Echolalia II -for audiovisual〉（共作・映像：小阪淳 / SAT Experimental Art Films for “le Foyer” Satosphere 入選） など。

6-3　作曲者名：足本　憲治　ASHIMOTO Kenji

作品タイトル：欠片の色　Color of Fragments

作品解説：表題に大意はなく、ちょっとした音素材を使いここ数ヶ月の生活感覚を残そうと試みました。ささやかな日記のような作品になっていれば、と思っています。

プロフィール：創作活動のほか、映画・TV、コンサートにおける編曲をしばしば担当。中学校教科書には編曲作品が複数採用されている。全幕の編曲を担当したオペラ《オルフェオとエウリディーチェ》では三菱 UFJ 信託音楽賞奨励賞を受賞。最近の作品・仕事としては、吹奏楽曲『Kicky Game』(WAKO Records)、フルート独奏曲『Bocc』(Daiki sound)、NHK 連続テレビ小説『おかえりモネ』、TV-CF『いち髪』など。現在、国立音楽大学准教授。

6-4　作曲者名：石上　加寿也　ISHIGAMI Kazuya

作品タイトル：もう一つの日常のこと　Another Everyday Things

作品解説：ついさっきまでは普通だったはずの日常が、一瞬にして崩れてしまうこともある。もしも、あの時、こうなっていたら、なっていなかったら、等と考えたところで、どうしようもないのだが。せめて、夢の中だけでも、ほんの少しだけ次元の異なる世界の日常を味わいたい。
本作品は、イギリスのレーベル Geisha Sun Cookies から 2024 年 1 月 30 日にリリースされた、私のソロアルバム『Just Everyday Life』のリミックス作品ともいえる。
『Just Everyday Life』の視聴は以下のサイトから
https://awkwardgeisha.bandcamp.com/album/just-everyday-life

プロフィール：1972 年大阪生まれ。作曲家、即興演奏家。幼児期からテープレコーダーで遊びながらカットアップ・コラージュ風の作品を作り始める。1992 年からソロライブ活動およびテープ音源リリースを開始。1994 年からコンピュータと音楽プログラミング言語 Max を使用したライブ演奏および作品制作をはじめる。
1997 年フランス INA-GRM での夏季アトリエに参加。DR(ドイツ公共放送)での委嘱作品をはじめ、WDR(西部ドイツ公共放送)、MUSLAB 国際電子音響祭(メキシコ)、Zeppelin 国際サウンドアート電子音響音楽祭（スペイン）、ICMC 国際コンピュータ音楽会議 2015(アメリカ／テキサス) 、Music From Japan 2020（アメリカ／NY）などで作品上演をおこなう。 自主レーベル NEUS-318 と OMO-DARU を主宰。

16:45 CCMC 公募入選コンサート B/ Concert B: Works selected by CCMC

B-1　作曲者名：張　楊　ZHANG YANG

作品タイトル：高山流水

作品解説：この作品は全十場面で構成されている。「破山寺後禅院（常建）」という中国の詩に基づいて、詩人が見た景色を感じるために、「萬籟」（万物が発する音である）と「鐘磬」（鐘は寺の鐘で、磬とは石をみがいて作った打楽器である）の二種類の音に注目しながら、その詩が伝えている「世俗を忘れ、山水に思いを寄せる」という思想を様々な音響処理と音の合成で表現した。中国文化では、「高山流水」は精神的自由の追求を意味する。それをこの作品で表現するために、環境音や人の声などの具象的な音のみならず、抽象的な音を用いた。まだ、「萬籟」を「鐘磬」と明確に対比するために、それぞれに対して様々な音響処理を行なった。例えば、鐘の音を「GRM tools」で加工し、ピッチと長さ、そして音色を調整して、音素材を抽象化した。さらに、グラニュラ合成で、音素材のリズムを再構成するのを試みた。

プロフィール：1999 年中国四川省生まれ。四川外国語大学成都学院卒業。2019 年から、作曲を勉強始め。2022 年に相愛大学で短期留学生として入学、そこで様々な音楽授業を体験した。2023 年に洗足学園音楽大学大学院音楽研究科音楽・音響デザインコース修士課程 1 年次在学中。電子音響音楽を森威功に師事。主に Cyclin'74 Max/msp による音の合成やインタラクティブデザインなどの研究を注目している。

B-2　作曲者名：ロエイショウ　LU YONGSONG

作品タイトル：Communication

作品解説：本作品は自然界の昆虫の音を録音して作られたアクースマティック音楽である。20 種類の昆虫の声を素材として使用し、昆虫の声を人間の言語のアクセントに調整した（中国語/日本語）。作品には 3 つの部分があり、それぞれ朝/昼/夜を表している。

3 億年前から昆虫は地球上に住んでいて、今までに 80 万種の昆虫がいる。昆虫同士はどのようにコミュニケーションを取っているのだろうか。昆虫の言葉はとても興味深い。例えば、蛾の言葉は無声だが尾から発信される。シロアリは脅威を受けると集団で頭をたたいて音を立てて侵入者に警告する。

もし私たち人間が言葉で昆虫とコミュニケーションができたら、それはどんな言語になるのだろうか。本作では、その人間の声と昆虫の声を互いに融合してみる。人間の目線で昆虫たちの会話を聞く音の作品である。

プロフィール：東京在住の作曲家・プロデューサー、洗足学園音楽大学大学院生、森威功教授からアクースマティック・ミュージックと Max/MSP を学び、Marty Hicks からライブ・エレクトロニクスを学びました。

B-3　作曲者名：金　鍾均　KIM JONG GYUN

作品タイトル：meltdown examination

作品解説：相転移というのは物理的性質の一部が急激に変わる現象だ。急激な物理的変化から出る音に集中し、特に融解と気化、昇華のサウンドテクスチャを気にした。主に使用した物質は氷であり、氷が置かれている色々な状況で相転移が発生時サウンドを録音、活用、表現した。また、同じ物質の相転移でも熱や圧力が伝達される速度と大きさ、物質の質量と体積によってサウンドテクスチャが変わり、私たちが物質の状態や状況を理解しにくいサウンドも聞かせてくれる。そのような理解しがたい状況の音を音楽的に再構成する。

プロフィール：大韓民国出身。現在、洗足学園音楽大学の学部生。高校まで韓国でクラシック作曲を専攻。日本に留学に来てから電子音楽に接した後、専攻を電子音楽に変えることになる。

B-4　作曲者名：ジョ　コウギ　XU KANGYI

作品タイトル：心流　Kokoro no nagare

作品解説：この作品は、何かに集中している「人の心の流れ」をテーマにしており、完全に没頭することで外界を遮断し、自己を忘れた無の状態に入る瞬間を描写している。

人は、何かに没頭する過程で、目標に集中し、外部の騒音に干渉されず、しばしば時間の経過を忘れてしまう。その体験は、感受性が養割れる特別な時間とも言える。

表現するにあたって、ほぼ全ての音は自身で録音した素材から作成している。具象的な音は抽象的な音に変換し、流れていく様子を表現した。

制作プロセスでは、Max/MSP を使用し、録音素材に音声信号処理を施すことで多様な音響を取得している。

また、Logic Pro X に標準搭載されているサンプラーの可能性を追求し、標準エフェクトを使用して、全体の空間や質感を整えている。

プロフィール：洗足学园音乐大学音楽・音響デザインコース大学院 1 年生、中国星海音楽院の音楽科技学科学部課程終了。主に電子音響音楽やフュージョンなどのジャンルの作品を制作している。

B-5　作曲者名：ト　シュンコ　DU JUNHAO

作品タイトル：BICYCLE（自転車）

作品解説：本作品は自転車の音を録音して作られたアクースマティック音楽です。自転車の音は日常生活でよく聞かれます。自転車が道路を走行する際、さまざまな音が発生します。イヤと路面の摩擦音、ベルの警告音、チェーンとギアの音、車輪の回転音、ブレーキ音、風切り音なと、これらの音はすべて日常生活でよく聞かれる音です。その日常の音を録音と加工してこの作品を作りました。

プロフィール：洗足学園音楽大学大学院　音楽・音響デザイン 1 年

B-6　作曲者名：カンチ　HAN ZHI

作品タイトル：もし自分が虫だったら　Si j'étais un petit ver.

作品解説：この音楽プロジェクトは、「もし自分が虫だったら」というテーマに基づき、虫の視点から新しい音楽を探求するものだ。

音源収集は側溝、道路、公園、森だとで行った。これらの素材を組み合わせて外的世界と内的世界を音楽で結びつけた。

制作プロセスでは、Max/MSP を駆使しグラニュラー・シンセシスを使ってオーディオ素材を加工した。さらに、音の素材を整理し、様々な音源を組み合わせて調和を取った。

Valhalla の Reverb/Delay/Space modulator などの外部プラグインを使用して、空間表現と抽象度を向上させた。 GRM Tools の Comb Filter や Doppler を使用し、環境の緊張感や虫の飛翔感を表現した。

プロフィール：中国貴州省出身、2021 年中国四川音楽学院卒業した。現在、洗足学園音楽大学で電子音響音楽を専攻。

17:30 CCMC 公募入選コンサート C/ Concert C: Works selected by CCMC

C-1　作曲者名：守谷　悠吾　MORIYA Yugo

作品タイトル：落ちてゆく

作品解説：この作品は「落ちる」という言葉によって得られる身体効果をもとにした作品です。

落ちるという言葉、それに関連する事象の音を深く聞き、深くイメージすることによって聴衆者はそこにいながら自分が本当に落ちてゆくような感覚を得られることが可能になります。観客席を溶解させられ、ひたすらに落ちてゆく聴衆者。それは不安定な意味にとらえられるかもしれませんが、この作品の目標としている意味はそうではありません。「落ち着く」という言葉があります。この言葉の語源は「落ちて地に着く」ということを言います。落ちて地に着くことによって私たちは安定することができます。この作品では作品が終わった時が地に着く時であり、落ち着く時でもあります。つまりこの作品は新しい観点から考えたヒーリングミュージックでもあります。

プロフィール：2002 年生まれ、神奈川県茅ヶ崎市出身。ハウリングの原理を利用し、竹を素材にして制作した FeedBack Organ という自作楽器を使用し、日本の文化的な形式や思想を組み込んだライブパフォーマンスを行う。

C-2　作曲者名：王　梓屹　WANG　ZIYI

作品タイトル：《Mono 疎外》

作品解説：現代社会では、人間の活動や人間関係が人間の本質や欲求から切り離され、意味のない疎外されたものになっている。社会学や哲学、心理学では「疎外」として知られる現象である。マルクスは「疎外」という概念を掘り下げ、労働の反復的・機械的な性質が個人の主体性を失わせ、無表情な「物」のようになっていると主張した。

この現象をテーマとして、《Mono・疎外》という作品を創作した。作品のタイトルにある“Mono”という言葉は、日本語で“物”と“者”という二重の意味を持ち、疎外される前と後の個人の二つの状態を表している。さらに、“Mono”には 1 チャンネルの意味合いもあり、現代社会における個人の疎外感や孤立感を強調している。老化した椅子の音を始め、段階的な変化によって、聴き手の心の中に、現代社会に対する深い内省と感情的な共鳴を呼び起こし、機械化された現代社会において、より真正で有意義なあり方を再接続し追求することを望んでいる。

現代社会では、人間の活動や人間関係が人間の本質や欲求から切り離され、意味のない疎外されたものになっている。社会学や哲学、心理学では「疎外」として知られる現象である。マルクスは「疎外」という概念を掘り下げ、労働の反復的・機械的な性質が個人の主体性を失わせ、無表情な「物」のようになっていると主張した。

この現象をテーマとして、《Mono・疎外》という作品を創作した。作品のタイトルにある“Mono”という言葉は、日本語で“物”と“者”という二重の意味を持ち、疎外される前と後の個人の二つの状態を表している。さらに、“Mono”には 1 チャンネルの意味合いもあり、現代社会における個人の疎外感や孤立感を強調している。老化した椅子の音を始め、段階的な変化によって、聴き手の心の中に、現代社会に対する深い内省と感情的な共鳴を呼び起こし、機械化された現代社会において、より真正で有意義なあり方を再接続し追求することを望んでいる。

プロフィール：中国吉林省出身。2017 年中国武漢音楽学院作曲科に入学し、何井のもとでアクースマティック音楽作曲の指導を受ける。2021 年 NYCEMF（ニューヨークシティ電子音楽祭）入選。2021 年 ICMC（国際コンピュータ音楽会議）学生音楽賞入賞。2023 年昭和音楽大学大学院に入学し、由雄正恒に師事してアルゴリズミック・コンポジションを中心に研究している。

C-3　作曲者名：岩熊　恵子　IWAKUMA Keiko

作品タイトル：風

作品解説：風鈴が聴ける観光地へ行った際、町の方からちょうど終戦記念日の黙祷アナウンスが聞こえてきた。終わった途端、風が吹いて一斉に風鈴が鳴った。その情景を音に表した。未だ世界は穏やかで

もあり騒々しくもある。

プロフィール：福岡市在住。福岡女子短大音楽科卒のち音楽教室講師等を経て、大阪芸大通信教育部音楽学科卒。現在中学校で音楽指導に携わる。大学時代に電子音響音楽を学び、作品制作を続ける。

C-4　作曲者名：大金　駿介　OGANE Shunsuke

作品タイトル：Conversations with Myself

作品解説：身の回りにある様々な物から音を採取して作品にした。ABA という古典的な形式にのせて身近な物体に着想を得た自己内省的な曲に仕上げた。

プロフィール：7 歳よりピアノを始める。高校生から吹奏楽部で打楽器を初め、現在は山梨大学教育学部芸術身体教育コース音楽教育系に所属。

18:15 CCMC 公募入選コンサート D/ Concert D: Works selected by CCMC

D-1　作曲者名：Epameinondas (Epa) Fassianos

作品タイトル：Memoires of Japan (2023)　日本の思い出 (2023)

作品解説："日本の思い出" (Memoires of Japan) is an evocative electroacoustic composition that mirrors a journey through the cultural and natural landscapes of Japan. Across seven minutes, an immersive auditory journey is woven, incorporating the spiritual essence of Japan's narrative, its natural marvels, and the rhythms of vibrant cities. The essence of bygone eras is delicately captured by meticulously crafted micromelodies, inviting the audience to explore cherished memories and the longing for the Japanese home. As the composition unfolds, the convergence of the tranquil countryside with pulsating city life allows the harmonization of birds' songs with echoes that resonate with nostalgic reflections. The portrayal of Japan's natural wonders, including its waterfalls, serves as a metaphor for the ebb and flow of memory, inviting all to embark on a timeless journey of introspection and contemplation within the rich heritage and natural beauty of Japan. The work was composed in 2023.

プロフィール：Epameinondas P. Fassianos (Epa Fassianos) is a Greek Composer of Electroacoustic and Ambient Music. He was born in Athens, Greece in 1982. He has attended both the University of York (MA in Music Technology) and the University of Sussex (MA in Composition for Media and Film and MPhil in Musical Composition). He obtained his PhD from the University of Manchester (NOVARS Research Centre), under the supervision of Professor David Berezan. His area of interest was: Creating works of Acousmatic Music based on aspects of Greek Culture (Religion, Traditional Greek Instruments, Mythology).

He has been awarded the First Prize in Category A in MUSICA NOVA 2018 Competition of Electroacoustic Music in Prague, Czech Republic, as well as the Third Prize in MUSICWORKS 2018 Electroacoustic Music Competition in Toronto, Canada.

In addition, he has been accepted in ICMC (International Computer Music Conference) as well as NYCEMF (New York City Electroacoustic Music Festival), in New York City, United States of America. Moreover, he has received an Honorary Mention in ARS ELECTRONICA FORUM WALLIS Swiss Contemporary Music Festival (Leuk, Switzerland). He is currently working as a Composer and Sound Engineer for the Greek National Broadcast Radio and Television Corporation (ERT).

D-2　作曲者名：Mike Vernusky

作品タイトル：Omoidasu

作品解説：Comprising performers and field recordings of Japan, Omoidasu was inspired by my several visits to Tokyo across the last two decades.

Background

Some years ago I was commissioned by the Chicago-based art ensemble, MOZAWA, to create an electronic

score for an ultramodern adaptation of the short story, Yabu no Naka, by Ryūnosuke Akutagawa (1922). This consisted of improvised sound for a full length play for 7 actors, 3 dancers, and Japanese and English narration. After a successful run in the theatre with live electronics in performance, I was determined to see this piece live on, so I decided to develop it into an album of electroacoustic concert music.

It wasn't until I finished an early draft of the soundscape that I realized it needed a capstone work to complete the listening experience - one that would capture the essence of the original story, but in a concise musical moment.

That realization evolved into the piece here. (And to be clear, Omoidasu has been neither published nor publicly performed in any setting)

The work also culminates in a field recording of one of my earliest memories traveling to Japan: one of the antiquated and everyday vending machines located in the heart of Shibuya. This same machine was there the very first time I visited Japan in 2004, another time in 2010, still running in 2015, and finally recorded on on my last visit in 2018.

With analog electronics quickly fading into obscurity, I often wonder if this tireless machine is still operating there today. If accepted to the festival, I can would be eager to visit this location one more time to see if it's still there. Thank you for your consideration!

- Mike

プロフィール：Mike Vernusky creates concert music & sound art that disintegrates boundaries of era, space, and culture. He is also an avid field recordist, having recorded deep in the Amazon to the peaks of Hong Kong; from the bushveld of South Africa to the beautiful cacophony that is India.

Vernusky's music has been described as "brash" (New York Times), "isolationist" (The Wire), "especially otherworldly" (New Music USA), "strange & intriguing" (Exclaim), and "étonnante" (EtherReal France). As an emerging composer, he received 1st Prize in the Digital Music Awards from Keio University in Japan in 2004. Vernusky has cherished Japan ever since.

Vernusky is supported by Music at the Anthology, MetLife Creative Connections, CMMAS, and ASCAP. Holding grad and undergrad degrees in composition and classical guitar from The University of Texas at Austin and Mercyhurst University, his former mentors and teachers include William Duckworth, Denis Smalley, Francisco López, Kevin Puts, Albert Glinsky, and La Monte Young.

D-3 作曲者名：Panayiotis Kokoras

作品タイトル：Rotary Pan Flute

作品解説：In "Rotary Pan Wheel," I constructed a rotating wheel equipped with tubes of various sizes and lengths. Using an airbrush powered by compressed air, I blew air through the tubes while the wheel was in motion. By adjusting the angle of the airbrush or altering the direction and speed of the wheel during recording, I was able to capture a diverse range of sounds. This process formed the foundational sound palette for the piece. Subsequently, I applied spectromorphological and transcontextual transformations to further refine the sounds.

プロフィール：Kokoras is an internationally award-winning composer and computer music innovator, and currently Professor of composition and CEMI director (Center for Experimental Music and Intermedia) at the University of North Texas. Hailing from Greece, he underwent formal training in classical guitar and composition in Athens (Dip), Greece, and later in York, England (MA, PhD). He taught for many years at Aristotle University in Thessaloniki. Kokoras's sound compositions use sound as the only structural unit. His concept of "holophonic musical texture" describes his goal that each independent sound (phonos), contributes equally into the synthesis of the total (holos). In both instrumental and electroacoustic writing, his music calls upon a "virtuosity of sound," a hyper-idiomatic writing which emphasizes on the precise production of variable sound possibilities and the correct distinction between one timbre and another to convey the musical ideas and structure of the piece.

D-4　作曲者名：YuqiGuo+Zhejiang Media College

作品タイトル：Mire

作品解説：The work tells the story of many quagmires in the world. Including difficulties in life. The bell is an important role that runs through the whole song, like a beam of light that illuminates people in the mud. Describe the struggle and struggle in the quagmire by using high-purity electronic sound.

プロフィール：Composer Guo Yuqi, a fourth-year university student majoring in art and technology at the Conservatory of Music of Zhejiang Media College.

@Youtube 配信/YouTube distribution （３月下旬〜4 月下旬/ Late March to Late April） https://acsm116.com/

• CCMC2024 アクースマティック・ミュージック・チャンネル/Acousmatic Music Channel

• CCMC2024　入選作品コンサートのアーカイブ/Works selected by CCMC

お問い合わせ/Contact us : acsm116@gmail.com